

活動実績報告書

令和3年2月12日

登録番号 20200814号

氏名 佐藤 肇

1. 活動状況

平成30年4月～令和2年3月

林業事業体の生産性向上を図ることは、森林総合監理士の重要な役割の一つと考えられることから、国有林の素材生産請負事業を受注した林業事業体の生産性向上を図るため、

- ・ 関東森林管理局の森林整備部長として国有林の素材生産請負事業の実施を統括・指導する立場であり、資源活用課職員と一体となって森林管理署等の事業実行責任者（総括森林整備官及び森林整備官）等を指導
- ・ マイクロソフトエクセルで独自作成した「日報分析支援ツール」を管内の森林管理署等を通じて当該林業事業体に配布するとともに、各森林管理署等には当該林業事業体と連携して本ツールを活用するよう指導
- ・ 林業事業体等が参加する現地検討会、業界団体の研修会等の様々な機会において、生産性向上の目的・メリット、当該ツールの活用方法、優良な取組事例等について普及

する取組を実施した。

本取組を進める上での課題としては、すでに同局で配布されていた日報分析のツールは、事業途中の任意の時点における生産工程毎の生産性を算出する機能がなく、事業完了後に期間中の林内生産性の平均値のみ算出する仕様であったため、事業を実施しながら日報分析を行い生産工程毎の生産性の違いを把握し作業システム（人や機械の配置）を変更する根拠として用いるには適していなかったことである。また、こうした仕様であったため、具体的な日報分析が難しかったことである。

このため、中部森林管理局で作成され同局の「生産性向上実現プログラム」で使用されていたものをアレンジし、

- ・ 機能を生産工程毎の生産性の算出に特化
- ・ 生産工程毎の作業量を週単位で集計して作業量と生産性の推移をグラフ化することで仕様を簡素化

し、現場に導入した。

本取組の成果としては、エクセル操作に慣れている職員にとっては、アレンジが可能で本ツールの有効活用のインセンティブとなり、若手職員を中心として職員の意欲向上に繋がったほか、本ツールを用いて生産性の分析を行い森林管理署等で実施する林業事業体との現地検討会や報告会で活用されたことにより、林業事業体の育成にも寄与したものと考えられる。

また、こうした取組を経て、関東森林管理局における間伐時の林内生産性の平均値が年々向上し、取組の継続により、林野庁本庁の指示を受け設定した目標値(8m³/人・日程度)を数年で達成できそうな見込みとなっている。

今後の改善点としては、一部の林業事業体にとどまっている本ツールの効果的な活用方法の普及を図ることや、個別改善点として、上記⑥に記述した各取組事項を定着化させることである。

2. 研修の受講状況

なし

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

- ・日本森林利用学会が令和2年3月に新潟市内で実施したシンポジウムにおいて、関東森林管理局における生産性向上の取組について講演。

